

オリ・パラメダルと「都市鉱山」

様々な意見が飛び交う中で開催されたオリンピックが、8月8日閉幕しました。

新型コロナウイルス感染拡大の中で、大会が一年の延期の末、大部分の試合が無観客で行われ、大会直前になって運営面で様々な問題が明るみになるなど異例の大会だったといえます。

更に大会期間中にはコロナ感染が一層拡大し、医療面では逼迫した事態が生じています。

大会運営には数々の問題がありましたが、純粋に競技に注目すると、スポーツの素晴らしさを感じることができました。

日本のメダルの獲得数は過去最多となりましたが、メダルの色や獲得の有無に関わらず、アスリートが全力を尽くして競技する姿には感銘を受け、元気、勇気、希望を覚えました。

また、競技を終えたアスリートたちが、国境を越えて互いに認め合い、讃え合い、励まし合う姿には、オリンピックが世界の人々の絆を強くし平和に貢献する大会であることを感じさせてくれました。

大会期間中に8月6日「広島原爆の日」を迎えましたが、戦争の惨禍が再び繰り返されることのないよう祈りました。

さて、アスリートの栄光を讃えるものが、金・銀・銅メダルです。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、東京2020オリンピック・パラリンピックの金・銀・銅あわせて約5,000個のメダルに必要な金属は、「使われなくなった携帯電話を含む小型家電」の回収によって確保されたもので、金：約32kg、銀：約3,500kg、銅：約2,200kgが得られています。

リサイクル素材だけでメダルを作成した取組は史上初めてのことだそうです。

一つの携帯電話や小型家電に使われている金属量は極少量ですので、その収集量には驚きますが、家庭や企業に眠っている貴重な金属は「都市鉱山」と呼ばれています。

今回のメダルに使用された金属量は、まだほんの一部を掘り起こしたに過ぎず、「金」では「国内で使われなくなると見込まれる小型家電に含まれる量」に対して、リサイクルされているのは8%ほどだそうです。

金メダル1個の（銀の上に）金メッキにはスマートフォン200個ほどが使われますが、天然資源の鉱石から金を1g掘るのには1t以上の鉱石が必要ということですから、リサイクルを徹底すれば、たいへん有効な資源になるわけです。

日本は、資源が乏しい国と言われてきましたが、今日では「天然資源」は乏しいけれど「都市鉱山」には大量の資源が眠っているというわけです。

こうした話を聞いて、「そういえば、自宅にも古い携帯電話や小型家電が眠っていた」と思い出し、貴重な資源として見直す機会となりました。

オリ・パラメダルの必要金属の回収は、『都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト』として、2017年4月から2019年3月まで取り組まれたものですが、今後は東京2020大会のレガシーの一つとして、小型家電リサイクルが日常生活において定着することが期待されていると思います。

オリンピックに続くパラリンピック大会は8月24日から9月5日まで開催される予定ですが、再び表彰式でメダルを見る際には、そこに「都市鉱山」の金属が使われていることにも気持ちを向けて、資源回収への意識を高めないといけないと感じました。(N.W)